

知

の

ひとつの「学び」から得た発見が、

知の世界を広げてくれる出発点となります。

多様さと奥深さを持つ イギリスの魅力を楽しんで

教える人

松園 伸先生

講義内容

「近代スコットランド社会を考える
— 強靱な国民性に裏打ちされた、
過去200年の驚異的發展そして
「独立の途」—」



イギリスで購入したテディベアなど



「皆さんの熱意に心を打たれます」と松園先生

松

園先生の講座の大きな目的の一つは、イギリスを中心に世界を見る目を持つこと。

「日本人は世界を見る時にどうしても、日米」という二元的な見方になります。でも、イギリスは100年ほど前まで大帝国で、ヨーロッパで最も情報が集まる国。ですから、講座では単にイギリス近現代の議会史だけでなく、私が6年以上の滞英経験の中で知ったイギリス人がどのように世界を見ているかということなども伝えたいですね」

2007年に初めて講座を受けた松園先生ですが、受講生にはイギリス駐在の経験がある人など、関連のバックグラウンドを持つ人が多く驚いたそうです。受講者のレベルが高いので、今では大学院並みの授業

を行うことも。先生は「何を話してもだいたい分かってくれます。また、冗談を言ったら笑ってくれますし（笑）、積極的に質問もしてくれまして嬉しそうに話してくれました。」

熱意のある授業と気さくな人柄は受講生を魅了し、懇親会で語り合ったり、メールで相談を受けたりすることもしばしば。また、昨年1年間、先生は研究のためオックスフォード大学に滞在していましたが、夏には「スコットランド史」を受講した数名と、スコットランドを訪ねたそうです。「私は1泊2日だけの参加でしたが、文字通り実地研究を行いました。皆さんただ観光するのではなく、渡英前に数回集まって授業を復習し、一人一人がテーマを持ってやって来たのです。そのモチベーションの高さは

るや！ 講師冥利につきますね」と先生は顔をほころばせます。

最後に先生は、イギリスの魅力について「18世紀の文人、サミュエル・ジョンソンの言葉に『ロンドンに飽きた人は人生に飽きた人である』という言葉があります。これを私流に言い換えれば、『イギリスに飽きた人は人生に飽きた人である』ということになるんです」と語ってくれました。何かひとつの要素—政治、経済、また文化の中でも美術、芝居、お茶、アロマテラピーなど—に関心を持っていれば、イギリスは何かを与えてくれる場所とのこと。「奥が深いだけでなく、入口も広いんです。興味のあるところから入っていくと、イギリスという国の社会と人々は無限の楽しみを与えてくれますよ」

プロフィール

早稲田大学文学学術院教授。1960年生まれ。83年早稲田大学政治経済学部卒、86年同大学大学院政治学研究所修士課程修了、90年英国リーズ大学大学院Ph.D取得。英国王立歴史学会正会員(Fellow of the Royal Historical Society, FRHistS)。主な著書に『イギリス議会政治の形成—「最初の政党時代」を中心に』『産業社会の発展と議会政治—18世紀イギリス史』(早稲田大学出版部)がある。

松園先生の 学びの提言

おすすめ図書 ～私の本棚から～



『**倫敦(ロンドン)! 倫敦?**』
長谷川如是閑著
岩波文庫 1996年

明治、大正、昭和と活躍した言論人、長谷川如是閑(1875-1969)が明治末ロンドンに特派されたときのレポートです。すでに100年以上経っていますが並みの旅日記ではない鋭いジャーナリストの目でロンドン、そして英国を見えています。



『**ボックス・ブリタニカ**—大英帝国の群像』(上下巻)
ジャン・モリス著 椋田直子訳
講談社 2006年

七つの海を支配した大英帝国をわくわくさせる筆致で描いた著作です。

開拓

どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、それぞれの学門分野について
 学びの出発点とこれまでをお聞きし、そのヒントを探してみました。

学ぶことの楽しさは 世界が広がっていくこと



1902年秋、漱石が招かれて過ごしたスコットランド、ピトロホリーの親日派英人邸は、現在のダンダーラック・ホテル。レストラン壁面に漱石の写真あり。



大隈講堂の前で

学ぶ人

(2002年入会)

今枝 八十雄 さん

受講内容

「近代スコットランド社会を考える
 — 強靱な国民性に裏打ちされた、
 過去200年の驚異的發展そして
 「独立への途」—

今枝さんの 学びの履歴書

● 受講科目

- 2005年 会社法現代化と経営上の論点
- 2005年 企業再編の会計と税務
- 2007年 近代イギリスの歩み
—「女王の国」と民主主義—
- 2008年 19、20世紀イギリス史
栄光・繁栄・苦悩そして衰退(?)
- 2008年 「改革」するイギリス議会
—近現代イギリス議会政治史—
- 2009年 現代イギリス宰相論
—マーガレット・サッチャー、
トニー・ブレアと政治改革—
- 2009年 チャーチルとクレメント・アトリー
—「帝国」のイギリスから
「福祉」のイギリスへ—
- 2010年 漱石文学の世界
- 2010年 近代イギリス社会史
—伝統の中に息づく改革の精神—
- 2010年 20世紀イギリス社会史
—英国人にとっての生活の豊かさ
と精神の豊かさとは?—
- 2011年 漱石文学の世界
- 2011年 スコットランドの歴史
—城、マクベス、タータン、
そしてスコッチの国—
- 2012年 漱石文学の世界
- 2013年 近代スコットランド社会を考える
—強靱な国民性に裏打ちされた、
過去200年の驚異的發展そして
「独立への途」—

今

枝さんは2002年以来、エクステンションセンターの講座を受講してきました。はじめは仕事の関係でビジネスの授業を取っていましたが、定年後は銀行員時代にイギリスに駐在した経験から、松園先生の講義内容に深く興味を持ち、今まで行われた先生の講座はすべて受講してきました。先生の講座の魅力について、今枝さんは「まず、とても熱心な先生です。夜遅くまで受講生のために資料を作成してくださいなど、真剣に向き合っていただけです。また、授業のレベルも高いし、ユーモアも楽しいですね」と語ってくれました。

先生から薦められた本の中で最も「授業を受けているだけでは物足りない。漱石関連の講義をしているとのこと。」

印象に残っているのは、S. ヴァアイクの『メアリー・スチュアート』。「16世紀のスコットランド女王の伝記で、普通歴史関連の書籍というのは勝者からの視点のものが多いのですが、これは敗者の女王の話なので興味深いですね。日本語訳で500ページ以上の大著です」

今枝さんの知的好奇心はイギリス近現代史から、もともと好きだった夏目漱石や、彼が関心を抱いた絵画にまで広がっていきます。漱石に対する情熱は相当なもので、講座の知り合いを集めて、ご自身が講師となり年に1度漱石関連の講義をしているとのこと。

今年で4年目になりましたが、松園先生にも一度聴いていただき「少し照れながら話してくれました。」

現在は71歳。「今後はイギリス関連もを中心に、紺碧賞を目指したい」と目を輝かせる今枝さん。「学ぶことの楽しさは世界が広がっていくことです。サラリーマン時代や子育て中に多忙で学ぶ時間がなかった人にとって、ここでの講座は良い機会だと思えます。授業後のコミュニケーションなどで、先生や他の受講生とも親しくなれるのも魅力ですね」